

## 第6回 教育セミナー

# 通常学級で発達障害傾向のある 子どもたちへの具体的な対応を考える！

～子どもたちへ笑顔と、自分らしい成長のために～



# <第一部> 13:10~14:40

## 現状・課題とその対応の実際

### <パネラー(敬称略)>

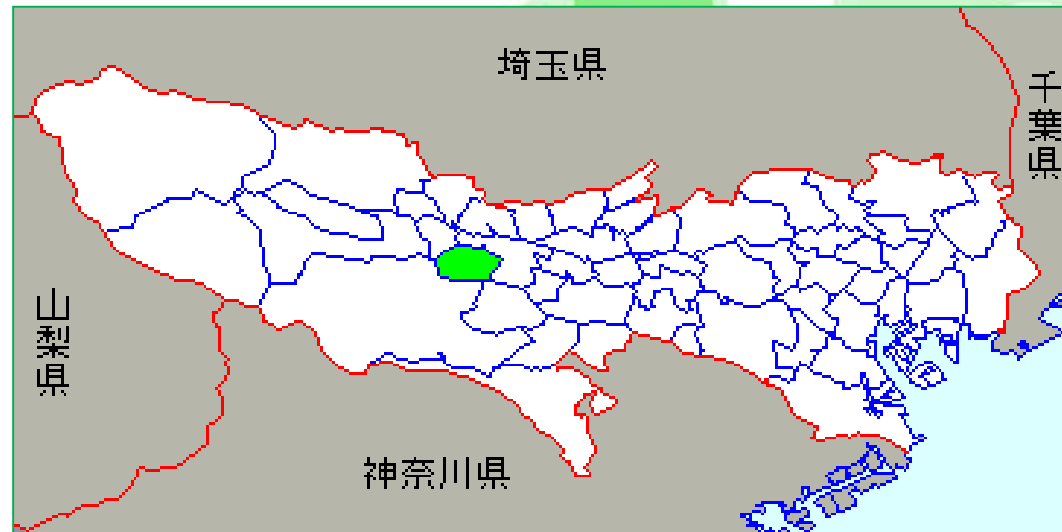
- ◆行政 国立市教育委員会 三浦利信
- ◆校長 昭島市立つつじが丘小 上田祥市
- ◆主幹(養護)特別支援教育コーディネーター  
多摩市立東落合小 竹川優子
- ◆主幹・特別支援教室巡回拠点校主任  
あきる野市立多西小 中村敏秀

# 自己紹介します

国立市教育委員会 教育指導支援課長  
国立市  
面積8.15km<sup>2</sup> (全国で4番目に小さい市)  
公立小学校 8校  
公立中学校 3校

平成元年 東京都公立中学校 技術科教員  
平成17年 あきる野市教育委員会 指導主事  
東京都教育委員会 特別支援教育体制モデル事業  
文部科学省・厚生労働省 特別支援教育総合整備事業  
平成22年 日野市立三沢中学校 副校長  
平成25年 国立市教育委員会 統括指導主事  
文部科学省 インクルーシブ教育システム構築モデル事業  
平成27年 羽村市立羽村第二中学校 校長  
平成29年 現職

あきしま  
昭島市



昭島市立つつじが丘小学校 校長 上田 祥市

\* 統合新校3年目

\* 全校児童数485名 通常学級13学級

\* 知的固定学級32名

(杉の子学級4クラス)

\* 特別支援教室拠点校(巡回校1校)

(そよかぜ学級53名・・・本校児童36名)

# 東京都公立学校情緒障害教育研究会 副会長・多摩北ブロック担当校長

1967年から始まる研究団体 51年目

\* 東京都の公立幼稚園、小学校、中学校を

5つのブロックに分けて運営

(東・北・南・多摩南・多摩北)

\* 総会、夏季研究大会・研究セミナーのほか

各ブロック研修年6回

# 本校の現状

- ★学校全体で支援が必要な児童を把握し、支援スタンスを共有する。
- ★誰が受け持ってもわかる書類管理法、書類作成システム。

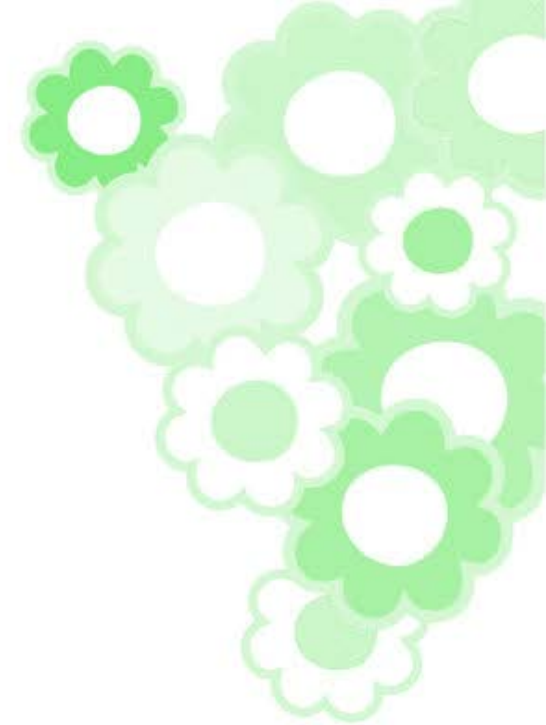
- 支援が必要な児童の対象者名簿を作成
- 個別指導計画（市内共通）作成児童数約60名（350名中）  
個別の教育支援計画（学校生活支援シート）も同様に作成



支援を必要とする児童はファイルを作成

- 巡回指導員による指導（週3日）
- 校内委員会で、入級・退級判定を実施
- 特別支援教室専門員、臨床心理士  
（年間40時間）、SC（週1日）、支援員（通常学級には毎日2名）





- 🌸 あきる野市って？
- 🌸 情緒障害等通級指導学級、特別支援教室担任 約20年
- 🌸 通常の学級に在籍する知的に遅れがなく、社会性の課題が見られる児童が対象。
- 🌸 通級型から巡回型へ制度変更
- 🌸 新設の特別支援教室で最初におこなったこと
  - ①職員への理解・啓発（全体研修会で障害特性、社会性の問題について）
  - ②保護者、児童への理解・啓発（保護者説明会、全校ビデオ集会）

## ★行政経験

あきる野市教育委員会

国立市教育委員会

## ★学校長経験

昭島市立玉川小学校

狛江市立狛江第三小学校

・特別支援教室拠点校

・情緒障害固定学級

## ★研究団体

東京都公立学校情緒障害教育研究会

**渡辺 秀貴**  
創価大学教職大学院



# 東京都教育委員会が進める特別支援教室とは

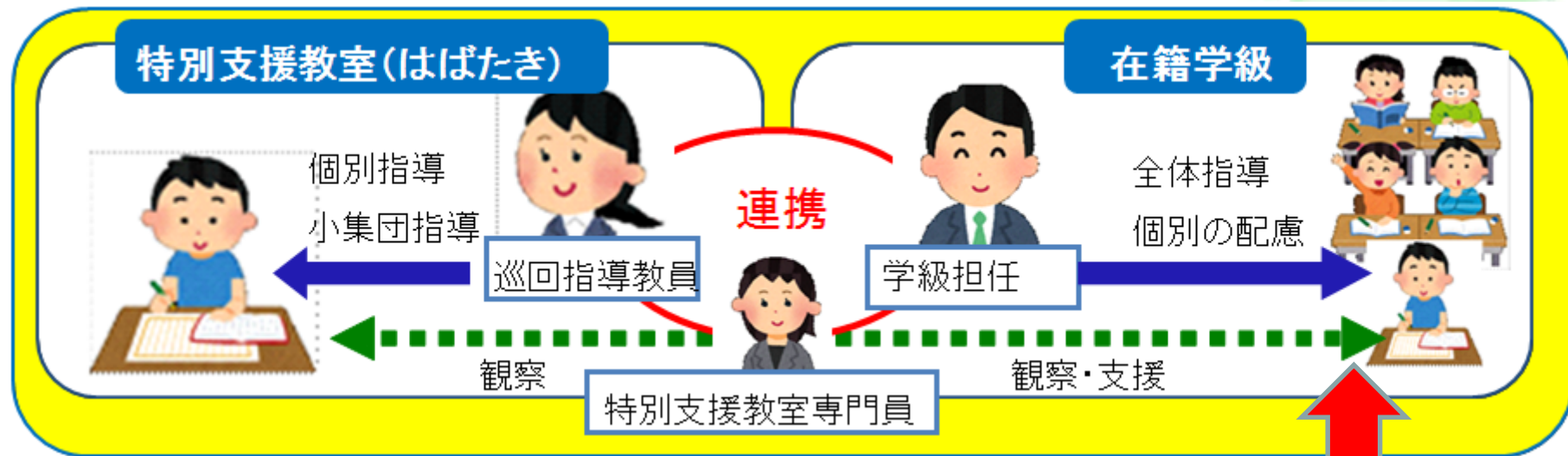
## 通級指導学級体制



## 特別支援教室体制



# 特別支援教室の実施体制（国立市の例）



## 特別支援教育専門員 (都費非常勤職員)

- ・1校につき1人配置
- ・校内外の連絡・調整役
- ・教材の作製や記録作成
- ・在籍学級の授業観察

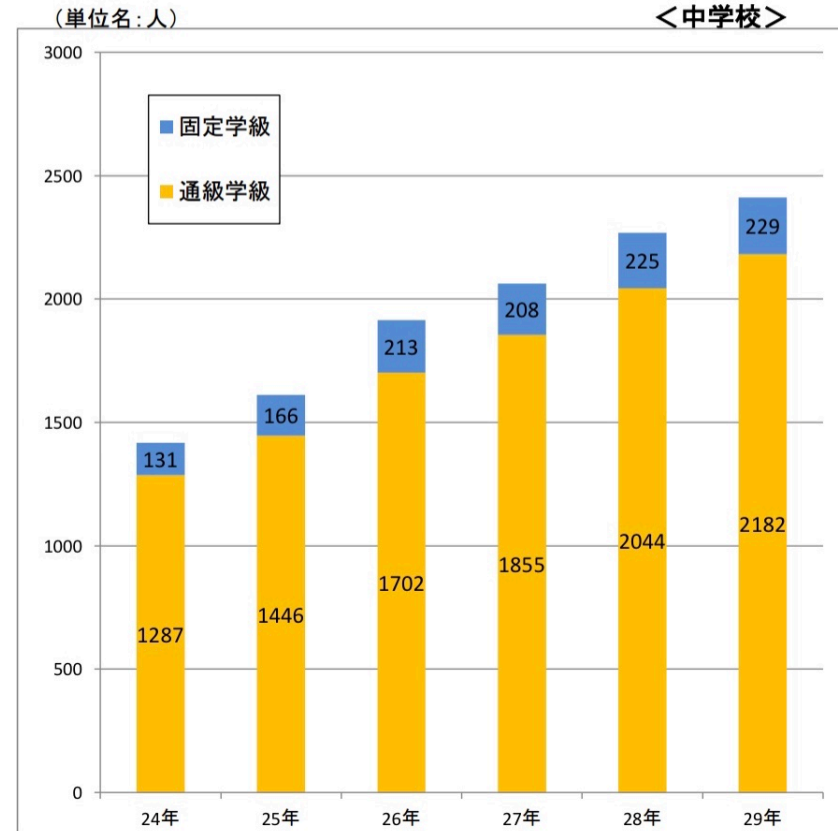
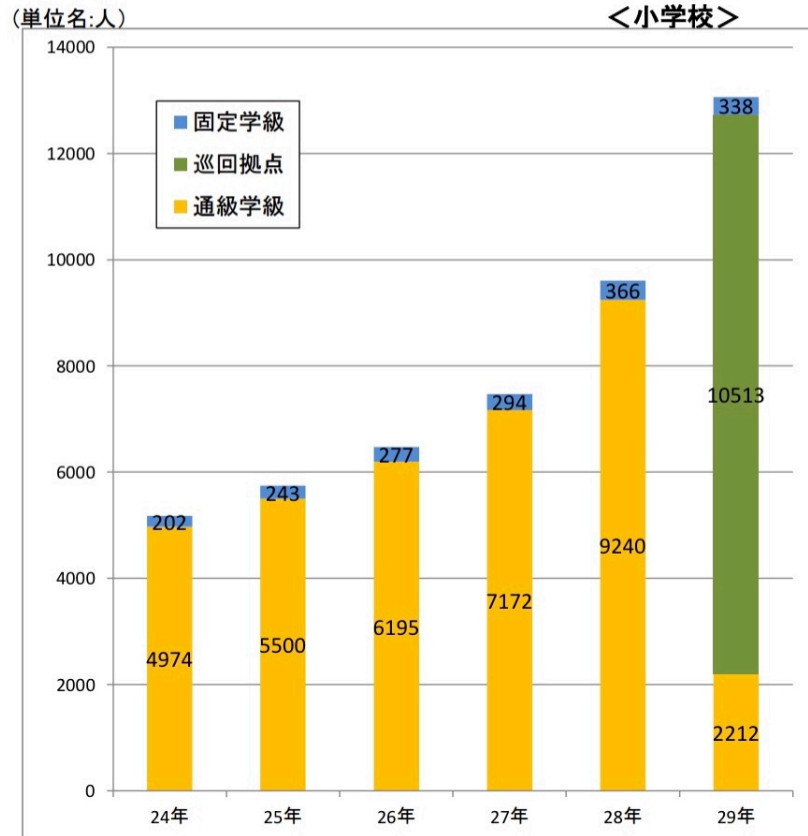
## 特別支援教育指導員 (市費嘱託員)

- ・発達障害への支援
- ・教室等での適応指導





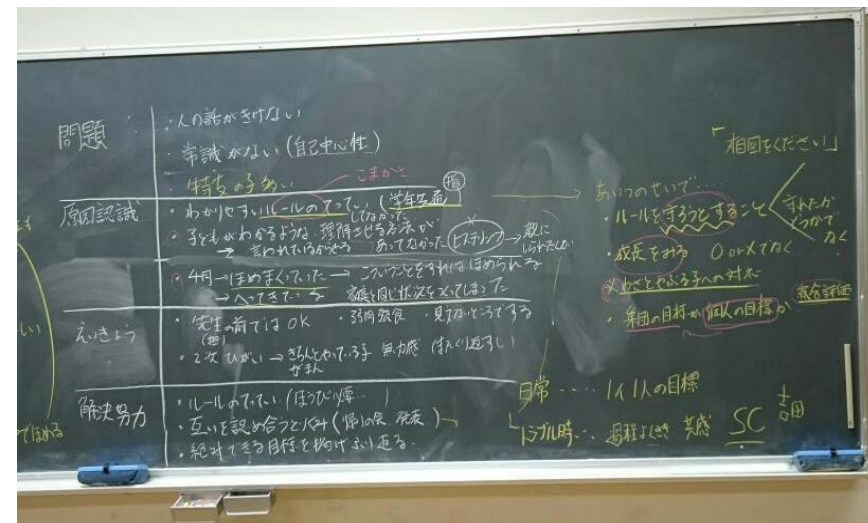
表一. 在籍別 児童・生徒数の推移



# 特別支援教育をめぐる現場の課題点

- ◆ 特別支援教室導入等に伴い人的配置が進んでいるが、増えた支援者をトータルコーディネートする人材の不足
- ◆ 専門員、心理士、スクールカウンセラー等の質の問題
- ◆ 校内員会における協議事項の増加
- ◆ 校内委員会や特別支援教育コーディネーターに求められる専門性
- ◆ 学校間,学校内での教員の温度差
- ◆ 本当の意味での支援策協議が行いにくい現状

(子供の特性のせいにして解決)



# 特別支援教室での支援を充実させるために

## 支援を充実させるための キーワード

- ①管理職のリーダーシップ  
⇒経営の中心に特別支援教育
- ②支援の中心は学級担任  
キーパーソンはコーディネーター  
⇒特別支援教室を学級担任が参観  
顔の見える調整役になる
- ③学級担任を支える職員室の  
雰囲気づくり  
⇒学級担任が相談しやすい環境

通常の学級と通級による指導の  
学びの連続性を実現するために



(独)国立特別支援教育総合研究所

# 学校経営の視点

## 1 学校としてのビジョンを示す

『自立と共生』・経営方針に基づく児童理解

## 2 客観的な実態把握から具体的な効果的な手立てを考える〔組織で動く〕

個々の児童理解は全職員の日から

4人のコーディネーターを中心とする校内委員会

## 3 学びの継続性と再現性を考える

特別支援教室での学びを活かすための在籍学級や  
家庭との連携

## 4 特別支援教育の理解と専門性の向上

☑児童に・・・全校朝会での理解授業

各学年ごとの理解授業

☑保護者に・・・保護者会での理解研修

専門家の講師による学習会

☑教員に・・・校内研修2回（専門家・そよかぜ教員）

通常学級教員のST経験研修年2回

## 5 特別支援教室巡回指導員の資質の向上


焦らず一つ一つ学ばせる・・・児童の何をとらえるのか、

何のためにやるのかを明確にすること


〔学習指導要領に根拠をもつ〕

# 社会性の問題って！

- ❁ 適応・不適応は相対関係で変わる！？
- ❁ 大人のための教室？いえいえ、子どもたちのための教室です！
  - 通常の学級→配慮指導
  - 特別支援教室→障害の改善・克服を目指す指導
- ❁ 特にASD（自閉スペクトラム症）の思考を理解する！
  - 多数派の理屈で解釈していませんか？
  - 多様性を認める学級経営の具現化を！



## 子どものエピソードを楽しみましょう！

- ✿ ケースA君の話！
  - ✿ 気づきと発見！
  - ✿ 私たち大人にいろいろなことを気づかせてくれる存在です！
- 

## これからの特別支援教育で大切にしたいこと

- ❁ 全体対応の中に個別対応がある。

QUでは、支援が必要な子供の50%以上が不満足群にいる。満足群は16%  
(東京福祉大学准教授 深沢和彦)

- ❁ 子供の特性のみに解決を求めるのではなく、集団の中での課題、指導方法の課題として対応を考える。
- ❁ 形骸化しない個別指導計画。
- ❁ 支援の接続を意識した校内組織。
- ❁ 正規職員以外の人材の育成と連携。

# 問題行動への視点



子供の問題行動

「この子の中に、どんな悲しみ、憎しみの感情があるのだろうか」  
「今、その悲しみは、どのように否定されているのだろうか」

担任の（親の）顔を見てホッとすると、安心するという関係性の構築

# 学校の教育支援力の向上に欠かせない事柄の関係性

自治体としてのビジョン  
実現する制度設計  
→人・物・金・情報・時間の準備

学校としてのビジョン  
→校長の経営方針：目的・目標・  
戦略の明示、周知・徹底

- ①校務分掌が機能
- ②リーダーが機能
- ③教職員の専門性の向上
- ④関係機関・関係者との支援体制が機能